

月 報

— 學 會 —

金澤醫學會第176回例會

2月24日(水曜日)午後2時より金澤醫科大學法醫學講義室に於て開會，其の演説次の如し。

1. 抗酸性菌株の變異型に關する標本供覽

金澤醫大結核研究所日置研究室

藤原美津夫

演者は曩に本教室に於て園部が喀痰中より分離せる色素產生抗酸性菌株に就き夫が培地を異にするに従ひ極めて規則的に變異を行ふことを知り之が Analogie を本來の人型結核菌に求めんと欲し目下實驗進行中なり。而して本席に於ては主として上記色素產生抗酸性菌に於ける各種變異型標本の供覽を行へり。

本問題は結核菌の生體內に於ける特殊性状に關して

も有力なる知見補遺を興ふるものにして極めて興味多し。

演者は更に進んで結核菌の變異型に關する名稱とその意義に迄言及せるも是等詳細に就きては今少し實驗の完成を俟ちて本學結核研究所年報に掲載する所あらんとす。

2. 心筋炎に於て余の考案せる壓診法に就いて

金澤市西町3番丁7番地

醫學博士 藤田六朗

胃・十二指腸潰瘍に於けるボアス氏並びにエルワルド氏壓痛點と同様の壓痛點が心筋炎に於ても存す。即ち背部主として第3時には第4・第5肋間に於て當該胸椎體左縁に接し約拇指頭大の壓痛點あり。此の壓痛點は諸種心臟瓣膜症患者にも存するも、之等に本質的に非ずして主として心筋炎(刺戟傳導路障礙をも含む)に特有なるものと思ふ。此の點に於て余はボアス氏が其壓痛點を胃潰瘍の診斷に用ひ、更に胃潰瘍と胃神經

症との壓痛點を區別せると全く其の見解を異にす。又本壓痛點は主として左心の病變に來り、右心の病變に於ては同じく第3・4及び5胸椎の右方に存するも、十二指腸潰瘍に於けるエルワルド氏壓痛點と同様の頻度及び意義少なきものと考へらる。

尙此壓診法を種々の心臟性自覺症を有する患者に應用する事に依り、所謂心臟神經症なるものの存在の如きは甚だ稀なることを提唱せり。

— 叙 任 ・ 辭 令 —

●内閣

2月17日

金澤醫科大學助手 三浦孝次

任金澤醫科大學助教授

敍高等官六等

●金澤醫科大學

2月4日

副手 道井他吉郎